

【経済成長の光と影】

国際理解と国際協力 ～世界の産業と人々の生活～

【実践者】

氏 名	澤田 将智	学校名	埼玉県立不動岡高等学校
担当教科等	地理総合	対象学年（人数）	1年4組（39名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024年11月 ～ （2時間）		

実施概要

01 実践する教科・領域

地理総合・工業分野

02 単元名と単元目標

単元名：国際理解と国際協力 世界の産業と人々の生活/人々の生活を支える工業の発展

単元目標：

- 工業立地について理解する。
- 労働集約的な工業立地の理由を理解する。
- 新興工業国での工業がもたらす正と負の影響とその生じる理由について理解する。

関連する学習指導要領上の目標：

「社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。

03 単元の評価規準

① 知識・技能	①人々の生活文化が自然環境や社会環境に影響を受けたり、与えたりすることを理解している。 ②国内の産業構造の変化を通して世界の国々の産業構造の変化を理解している。
② 思考・判断・表現	①統計資料から産業の変化やそれに伴う生活文化の変化について考察している。 ②地図や統計資料から考察した内容を自身の文章で表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	①産業や生活文化について、統計資料等から考察した内容を日常生活に当てはめ、自身の生活に生かそうとしている。

04 単元設定の理由・単元の意義

今年度初の授業である。テーマは「工業について考える」とし、工業立地論としての正しさと、現実にかき起こる様々な歪みについて生徒が初めて考えるきっかけづくりとした。

〈児童/生徒観〉

1 - 4 (39 名)

通常授業の雰囲気は良好であり、グループワークにも男女関係なく全体で積極的に関わろうとする空気がある。一方で、討論内容については幼い部分も否めず、良い意味で高校 1 年生という様子が見られるため、討論の時間の際には教員からの助言等が必要な場面が多い印象がある。

〈指導観〉

昨年度より、知識補給とした従来型の板書による授業と、様々な手法を用いたグループワーク型の協調学習を組み合わせた授業展開を導入している。今回はその工業分野の回にあたる。

単元全体は 2 回の構成となっており、1 回目に板書により単元の基本事項を説明した。特に、A.ウェーバーの工業立地論については大学入試においても重要事項である。

05 単元計画 (全 2 時間)

	小単元名	学習のねらい	学習活動
1	人々の生活を支える 工業の発展	工業の概論を知る	・教科書内容の講義
	資料・教材など	教科書、資料集、地図帳、授業プリント、授業スライド等	
2 本時	人々の生活を支える 工業の発展	工業の理論上の正しさと現実世界で起きていることを知る	・グループワーク ・ダイヤモンドランキングの作成と発表
	資料・教材など	教科書、資料集、地図帳、授業プリント、授業スライド等	

06 本時の展開 (2 時間目)

本時のねらい：工業の理論上の正しさと現実世界で起きていることを知る

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)
導入 (10分)	①話題提供 T:「私の服装がいつもと違います。」 「共通点があります。」 「Made in Bangladesh。」 T:「以前 F ホールで映画を見ました。」 「その監督メッセージをまず見てください。」 5分程度映像 T:「今日考えるテーマは、工業の立地についてです。」 ②資料配布 T:「繊維工場の労働立地は理論上正しい。」 ③本時の説明 T:「理論と現実とのはざまでは君たちは考える。」 「グループはいつもの。」 「ダイヤモンドランキングのテーマは、<u>現地の人が</u>何とかしたいと思う順番とは。」	この定義づけをどうするのか生徒に決めさせる
展開 (25分)	①ダイヤモンドランキングの作成 T: (開始5分後)「現地の人の定義は何か。」 「各班でネットを使いながらも考えて。」	
まとめ (15分)	①発表グループで集合 T:「現地の人をどう、定義づけしたのか。」 ②発表 T:「電子黒板に画面共有をしてください。」 ③感想記入 T:「本日の授業を経て考えたことを、思うままに記入してください。」	集合場所の指定、グループの把握を展開中に済ませておく。

使用する資料・教材：

- ・帝国書院『高等学校 新地理総合』
- ・とうほう『新編フォトグラフィア 地理図説2024』
- ・帝国書院『新詳高等地図』
- ・自作プリント

07 板書計画

なし

08 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・知識技能…期末考査における空欄補充問題の成否
- ・思考判断表現…期末考査における記述問題の成否
- ・主体性…本時の内容をまとめた感想文の提出状況

09 学校外との連携（※該当のある場合）

なし

10 学びの軌跡（※児童生徒の発言の変化など）

以下、生徒の感想より引用

・様々な事を招いていると思うが特に、女性の長時間労働や小さい子供の労働が深刻だと思った。学歴に関しては、1番負の連鎖を止めるのが難しいと思うから。子供が教育を受けられず、学がない人が国中増えてしまって、結果国としての発展が難しくなっているように思う。

授業を受ける前から、この問題については深刻だと思っていたが、こんなにも深刻だとは思っていなかった。（女子生徒）

・どの班も環境問題がランキングの一番最後にあり、地球温暖化が進む今の世界で、利益や経済成長を求めると後回しになりがちなのかなと思いました。労働者目線で考えると、労働環境や労働時間、低賃金労働などを改善したいが、経営者や政府の立場で考えると労働状況に目は向けない現状があると思います。全てを一度に改善することは難しいけれど、少しずつ出来るところから良くしていくことが大切だと思います。服の値段が安くなることは消費者側としては嬉しいけれど、その背景には低賃金長時間労働で空調設備もなく、室温と湿度が耐えられないほど高く、トイレからも悪臭が漂うという厳しい環境の中で働いている人がいることを知りました。誰かが幸せになると世界中の別の誰かが辛い思いをしてしまうことは本当に胸が苦しいです。世界中の人が明るい生活になるように考えていかなければならないと思います。（女子生徒）

・できるだけ低いコストでお金を儲けようと企業が思うことは全然悪くないと思うが、それを優先しすぎて労働者が身体的にも経済的にも、精神的にも苦しんで良いわけではなく、まずは労働者が気持ちよく働けるような環境を整備するべきだと思う。やはり労働者の労働環境は整うべきであると思うし、そうすることで労働者の仕事に対しての印象や熱意がよい方向に変化していき、さらに良質な商品を作っていけると思う。（男子生徒）

・私たち（先進国の人）は安価な衣類を求めている。そのため現地の人は低コストで大量生産することで利益を上げている。低コストで服を販売するには安い労働力が必要となる。安い労働力を求めるあまり労働者は劣悪な環境で長時間・低賃金で働かされざるを得なくなる。そのことを受けて私は、現地の人達がとても気の毒に思った。しかし、私たちはその人達に対して、お金を与える訳でも服を手際よく作る機械や知識を与えてあげている訳でも無い。とても複雑だが、途上国の人達がいるから私たちは安価な服を手に入ることができている。先進国は、どれだけの途上国の人たちからの恩恵を得て今の自由な暮らしができていいのかを分かっていないのではないかと。「途上国は自分たちで発展していけばいい」という考えは間違っているし、「途上国で作られた安価な服を大量に買ってあげよう！」という考えは、思いやりとは正反対だと思う。先進国の人達は、安価な服を買ってあげることで、途上国の人に利益をもたらすことに繋がり、途上国を支援している と思っているのかもしれないが、それは勘違いだと思う。安価な服を買う前に、もっと支援してあげるべきことが沢山あると思う。←改善されない労働環境の解

決に向けて現地に行き現地の人話を聞いてみるという途上国に寄り添い行動を起こす事が必要だと思った。(女子生徒)

・初めは働く女性の視点で考え、違法建築物での労働が一番改善したいこと、次が労働・衛生環境と低賃金労働だった。雇っている側は安く従業員を働かせて良い暮らしを単一で送っているのだと考えていたけど、話し合っていく中で安い賃金の仕事を取るのは、労働者を思っていることではないかと考えるようになった。それは、企業側ができるだけコストを低くし、安く売り、利潤を作るかを求めて工場に依頼をする形があるからだと思う。希望の安さで依頼ができなければもっと安いところに依頼をされるから、安い依頼でも受けいれざるを得ないと思う。だから思いやりゆえだと考えた。また、教育に関心のある親ではないと長子が当然のように働き始めるため、それを見た下の子供も働き始め、貧困の連鎖につながると思った。もし上の子が下の子の学費のために働いたとしても、そうなるようでは本末転倒なので、国が金銭面の援助をするべきだと考えた。しかし、国も援助できない体制であると思う。先進国に少しでも追いついていこうと工場を建て、他国からの依頼を請け負っても、低い賃金なら国にもお金が入らず、立て直そうにも国民の教養から何から着手する必要があるとできないと思う。人の営みをする上で環境は必要不可欠だけど、それ以前に住まう人の人命を優先するのが常識であるから、環境問題の解決は遠いと思う。そこまで行くには企業は、公正な価格で取引をすること、雇用者は、労働者を保護することが大切だと思う。そのためには私たち消費者は安くなったものでないものを買わなくてはいけないと思った。(女子生徒)

・働いている建物が違法建築物であることがあることを初めて知りました。女性の立場で考えたので、最初は女性の地位が1番大切だと思ったけれど、話し合っていくうちに女性の地位よりも先に解決しなければいけないことや、それを解決することで自ずと他の問題も解決されるから優先してほしいと現地の人々が考えるであろう問題があることに気づくことができました。しかし、考えても考えても疑問や、少し考え方を変えただけで同じ女性の立場からでも優劣が大きく変わってしまうなと感じました。また、やはりどうしても日本人の立場から見た考えが入ってしまうので本当に難しかったです。だから解決されない問題がまだまだ沢山あるのだろうと改めて思いました。1つの立場に立って考えようとしてもこれほど難しいのだから、様々な人の立場に立って考えるのはやはり難しいので、企業や政府が求められていることは、とても大事である上にとても難しいのだと実感しました。(女子生徒)

・今まで服が安くすぐ買えることに何も疑問を感じていなかったが、今回の授業を通して服に対する印象がガラッと変わった。中国やベトナム、バングラデシュでたくさんの服が作られていることは以前から知っていたが、そこでどんな人たちが服を作ってくれているのかまで考えたことはなかった。私は服に限らず、海外進出する企業には現地の労働者の生活を保証する義務があると思った。会社としての利益を追求するだけでなく仕事場の整備、賃金の改善が重要だと考えた。(男子生徒)

11 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

立場の差異で、意見が変わる。日本の目線での援助が失敗に終わるといことがある、ということから、ものの見方・視点を変えて考える必要性。

自分たちが思っている以上に、現地の利害関係は複雑であり、単純化できないということ。

12 苦勞した点

・どこまで討論の結果をもやもやで終わらすことができるのか。

13 改善点

- ・情報を盛り込みすぎているため、生徒の情報処理が大変であった。
- ・条件が複雑であるため、どの立場に立つのかを想定することが難しい。
- ・授業のゴールがどこにあるのかイメージしづらい。
- ・生徒に事前に考えさせた条件設定でもよかった。

14 成果が出た点

- ・事前の仕込み（映画視聴や各種グループワーク）が効果的に作用し、生徒たちはよく議論というものに抵抗なく授業に参加していた。
- ・情報学習室の ICT をふんだんに活用することができた。

15 自由記述

生徒の感想文は美辞麗句ばかりであるが、新たな気づきや視点の発見につながったことは確かなのではないかと考えている。地理総合は開発教育の宝庫であるからして、今年度は現地に行けなかったけれども授業実践の計画に支障をあまり感じることはなかったように思う。次年度以降では、逆にどこか現地に行くことでリアルな視座に立った完成される授業実践が生まれると思うと、今後の教育活動に希望が見える 1 年間であったように考える。